

スポーツ紙 (東京・日刊・サンケイ) にて  
『海洋汚染問題』を『NMRパイプテクター®』で  
解決する案を発表した記事が報道掲載されました

**東京スポーツ**  
TOKYO SPORTS PRESS

昭和35年4月2日第3種郵便物認可 **A版**  
7月4日 (木曜日) 3日発行  
東京スポーツ新聞社 2019年  
第19004号 日刊 (別紙別売)  
www.tokyo-sports.co.jp

東京スポーツ新聞社  
東京都江東区越中島2丁目1番30号  
〒135-8721  
編集 (03) 3820-0831  
販売 (03) 3820-0811  
電話代売 (03) 3820-0821  
関西支社 堺市東区船場大和川通3丁目13番地  
中部支社 名古屋市北区豊城4-3-19  
西部支社 福岡市中央区天神2の14の8  
振替口座 00120-2-93236

**日刊スポーツ**  
NIKKAN SPORTS

日刊スポーツ新聞社 2019年 7月4日 (令和元年)  
東京都中央区築地3の5の10 (令和元年) 7月4日  
〒104-8055 電話 (03) 5550-8888  
©日刊スポーツ新聞社 2019 8版 木曜日(先勝)  
(日刊)第26256号 昭和21年4月15日 第3種郵便物認可

〒100-8140 東京都千代田区大手町1-7-2  
TEL.03-3231-7111 (大代表) ©産業経済新聞社2019

**サンケイスポーツ**  
令和元年(2019) 昭和38年3月16日 第3種郵便物認可  
日刊 第20107号  
7/5 金曜日 友引 7版☆  
提携 道新スポーツ

**キャパシタマイン**

**赤錆を黒錆に還元**  
日本システム企画株式会社  
(東京都渋谷区、熊野活行社長)が、海洋汚染問題の解決に向けた取り組みを発表した。  
ペットボトルの海洋廃棄など、水にまつわる諸問題の解決は世界的な喫緊の課題。その中でも、水道配管の老朽化による赤錆は発展途上国では特に深刻だ。

**環境問題解決の切り札となるか**

日本システム企画株式会社が画期的取り組み発表



注目を集めているNMRパイプテクター

同社が独自の技術で開発した「NMRパイプテクター」は、配管内の赤錆を黒錆に変えて赤水を解消することにも、配管内に発生した赤錆を黒錆に還元させることで、配管内の強度を維持し、赤錆閉塞を改善させるというもの。既に日本赤十字病院をはじめとした多くの医療機関、新千歳空港などの施設やマンションビルに設置されている。また、英国バッキンガム宮殿、大英博物館などの有名建物の配管防錆装置としても使用されている。環境問題解決の切り札となるか注目される。

**気になる情報**

**赤錆びを黒錆びに！水道管更生装置のセミナー開催**

英などですぐに設置

「NMRパイプテクター」を開発した日本システム企画の熊野活行代表取締役社長

配管内の赤錆びを黒錆びに還元する「NMRパイプテクター」を開発した日本システム企画(本社●東京・渋谷区、熊野活行社長)がこのほど、都内でセミナーを行った。

国内では水道水を飲めるが、ペットボトルでしか水が飲めない国や地域が多々ある。その飲料に使用したペットボトルが海洋汚染の一因にもなっており、今回の大阪G20でも海洋プラスチック問題が議論された。熊野社長は「水道水がまずく飲めないのは配管の劣化による赤錆びが原因でもある」とし、特許も取得した水道管の更生装置「NMRパイプテクター」の使用によって活水効果を高めると説明した。すでに英国バッキンガム宮殿や大英博物館にも設置され、ベトナムのビンフック省の水道管でも実証している。この件に関する問い合わせは、日本システム企画PR事務局03・332339・8191まで。

**サンスポ インフォメーション**  
information  
企画制作 サンケイスポーツ営業局

**日本システム企画がメディア向け説明会**  
水道管内発生する「NMRパイプテクター」をPR  
赤錆除去装置

日本システム企画はこのほど、メディア向けの説明会を東京都千代田区で開催した。登壇した熊野活行社長は「写真」は、水道管内に発生した赤錆びを除去する装置「NMRパイプテクター」を紹介。装置が発する特殊な電磁波が赤錆びを黒錆びに変え、赤錆びが溶けた赤水を解消する。黒錆びは水に溶けないため、熊野社長は「南部鉄器の表面と同じで、無害」と説明。英国のバッキンガム宮殿や大英博物館などで採用実績があり、特に歴史的建造物を多く抱える英国市場で注目を浴びている。

熊野社長は「水道管の更新には多額の工事費がかかるが、NMRパイプテクターは取り付けるだけで40年以上使える」とメリットを説明した。また、「水道水が飲めるようになれば、ペットボトルの使用量が下がる」と水道水の水質が向上することで、全世界で年間4800億リットル削減されるプラスチックごみの削減につながる」と説明。近年、国際的に問題になっているプラスチックゴミによる海洋汚染の解決に貢献できると胸を張った。